



校長室だより

No.2

つなぐ

平成30年5月1日

校長 阿部修三

求める児童像

○進んで学ぶ子

○思いやりのある子

○がんばりぬく子

## 恕（じょ）の心

子曰く、「それ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿（なか）れ。」と。

これは、孔子の言葉です。孔子は、紀元前6世紀ごろ「儒教」を開いたことで有名な人です。

孔子は、「一生を通じて何が大切ですか？」という弟子の質問に対して、「それ恕か。己の欲せざる所、人に施すこと勿れ。」と答えました。

訳してみると、「大切なのは、恕という思いやりの心だ。自分が言われて嫌だなと思うことを言ったり、されたら嫌なことを他の人にしたりしないことだ」となります。孔子の言葉ですから、大人向けの説教に聞こえますが、実は小学生にも理解させておかなければいけないことであると私は考えています。



今日一日を振り返ってみたとき、「自分が言われたりされたら嫌なことを他の人にしなかったらどうか」と振り返らせること、自問させることはとても大切です。

自分ではほんの遊びのつもり、冗談のつもりであっても、相手の人はとても嫌な思いをしたり、苦しい思いをしたりしていることがあります。そのことを考えさせることは、「相手の立場に立って物事を想像し、考える力をつけること」につながります。成長の過程で思いやりの心を失ったり、身に付いていないと社会生活を送るうえで大きな支障があったり、大きな代償をその子自身が払うことが十分予想できます。私たち大人がしなければいけないこと。

それは、子どもに「恕の心」をつけるということではないかと私は考えています。

もし、周りの人が「面白いから…」「冗談だから…」「ちょっと腹が立つから…」という理由で、嫌なことを何回も言ってきたり、してきたりしたらどうでしょうか。どんなにつらいことでしょうか？人の心は傷つきやすいものです。傷つけた人に悪気はなくても、傷つけられた人の心にはいつまでも残るものです。顔は笑っていても心の中は涙があふれていることもあります。相手の表情だけでなく、心の中に思いを馳せないと、人の心を深く傷つけてしまうものです。相手が笑っているから…、何も言わないから…してもいい、言ってもいいではありません…。学校では、そう教え続けます。

学校は、みんなが助け合い協力してともに成長していく場所です。

一人ひとりが互いに思いやりの気持ちを持てば、どんなに気持ちよく生活できるでしょうか。傷つけ、傷つけられるようなクラスや学校では、それぞれの個性や輝きも失われていきます。

津留小学校は、地域の方々や様々な人々から「よく頑張っている」と素晴らしい評価をいただいています。友だちと協力できる人、さりげない心づかいができる人がたくさんいます。しかし、しっかりと自分の生活を振り返る必要があるのも事実です。みんなが今まで以上に「思いやりの心」を持ち続け、周りの人を大切に作る毎日を送ることを期待しています。

恕の心（思いやりの心）を大切に、毎日を楽しく過ごせるよう学校と家庭で一緒に育てていきましょう。